

ホームページへの掲載		
済	6月29日	掲載予定

岐阜県立吉城高等学校

学 校 長 鈴木 健
 学校住所 飛騨市古川町上気多1987-2 電話 0577-73-4555

- 1 会議の名称 岐阜県立吉城高等学校評議員会（第1回）
- 2 会議の構成
- | | | |
|-------|-------|----------------|
| 委 員 | 石原 典子 | 民生委員・主任児童委員 |
| | 尾賀 眞平 | 尾賀書店 |
| | 田上 昌広 | 飛騨古川青年会議所理事長 |
| | 仲島 豊 | 卒業生の保護者 |
| | 前川 隆子 | 主婦 |
| | | (委員名は五十音順) |
| 学 校 側 | 鈴木 健 | 校長 |
| | 大野 貴司 | 教頭 |
| | 日野 利明 | 事務長 |
| | 藤守 学 | 教務主任 |
| | 下嶋 和長 | 生徒指導主事 |
| | 小原 誠 | 進路指導主事 |
| | 小澤 耕 | 活力あるワーキンググループ長 |
| | 寺門 隆治 | 理数科主任 |
| | 鈴木 泰輔 | キャリア推進部長 |
- 3 会議の目的 学校運営等について地域住民や保護者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援、協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成30年6月1日（金） 13:00～15:45 吉城高等学校会議室
委員5人と学校側9人が出席
- 5 会議の概要

(1) テーマ 吉城高校のこれまでの取り組みに対する評価と今後の在り方について

学校からの説明

学校長 パワーポイントによる説明

- ・H29年度協議会での検討の経緯
- ・吉高地域キラメキ（YCK）プロジェクトのこれまでの実践と今後の取り組みについて
- ・学力とYCKとの関連について
- ・平成31年度入学生のカリキュラムについて
- ・創立70周年に向けて等

資料説明

- ・資料1 平成30年度学校経営計画（マニフェスト）
- ・資料2 平成30年度地域連携による活力ある学校づくり推進事業実施計画
- ・資料3 平成30年度キャリア教育サポート事業のご提案
未来のためにできること YCK PROJECT 2018
つかめ生き抜く力 YCK PROJECT 2018 YCKリーダー
- ・資料4 平成30年度理数教育フラッグシップハイスクール実施計画書
- ・資料5 吉城高校平成31年度単位制への移行について
- ・資料6 高校「開かれた教育課程」～H30年度以降の授業での地域人材の活用～
- ・資料7 岐阜県立高等学校の活性化に関する検討まとめ＜平成29年度＞

- 意見1 マニフェスト（資料1）の項目別数値実績において、家庭学習時間が、H29年度に大幅に増えているがなぜか。
- 学 校 この調査は毎年9月中旬に調査しており、昨年度は曜日の関係で定期考査に近い日の調査となったため増えたことが考えられるが、学校や学年、担任の指導を充実させた結果、増加したことも事実である。
- 学 校 年々生徒は真面目になってきている。
YCKプロジェクトについては、前に掲示してあるボードに15のプロジェクトの参加人数が書いてある。割り当てではなく自主的な希望者を募ったところ、全校生徒355名に対し、延べ600名以上が手を挙げている。
- 学 校 今年度で4年目の取り組みとなる。昨年度から関口さん（キャリア教育コーディネーター）、今年度から盤所さん（キャリア教育アドバイザー）に加わってもらい、組織的にも整備されてきた。これまで様々なことを行ってきたが、今年度は15の課外活動を設定し、「事前調査・活動参加・振り返り」といった一連のサイクルの中で、きちんとした記録を残し、新しい大学入試へ向けての準備も整えている。
- 意見2 飛騨市以外から生徒を呼び込みたい。高山市の中学生からすると「遠い」といった印象が強く、交通網の整備が課題である。部活動の独自選抜入試は魅力的であり、部活動を活性化させることで、地域とのつながりも強くなる。また、サッカー部は杉崎グラウンドを使用できることになり、練習環境が整い大変感謝している。
- 学 校 独自選抜は、29年度入試まではサッカーだけであったが、30年度入試から、剣道、バレーボール、陸上競技が加えられた。杉崎グラウンドの使用は、飛騨市のご好意によって29年度に実現した。
- 意見3 民生委員の間で吉城高校の取り組みについて理解が深まり、古川祭では、ボランティア活動に対する協力体制を整えた。生徒の姿に対して民生委員の評価は高く、地域から様々な立場の住民が集まる「地区ふれあい集会」では、YCKプロジェクトの話聞くようになっている。吉城高校の活動を地域が知るよい機会となり、嬉しく思っている。
- 意見4 今年度委員を委嘱され、何も知らない中での参加だったが、課外活動のプログラムを見させていただき、学校からの説明を受け、地域のよさを知り自分の長所を発見できれば、地元に残ってくれる若者が増えるのではないかと感じた。
- 意見5 YCKは地域に根付いてきている。例えば古川祭では、地域のお年寄りが、外国人に道案内してくれる吉城高校の生徒を探していた。
15のプログラムの構成は優れている。昨年の報告会では、幼少のころから知っている子（生徒）が堂々と話をしており、成長を感じ取ることができて大変嬉しかった。進路もこの活動が影響を与え、関係の大学へ進学したそうである。
- 意見6 このプログラムの中で、私たちが関係するものに「はたらく車展」があり、見に来ている子どもたちとの触れ合いはもとより、大人たちとも積極的に話をしており、大変よい活動だと感じている。ただ、プログラムの表記に、「おすすめしない人」という言葉があり、「主体性をもって飛び込んでいく」といった積極的なイメージが損なわれているようにも感じる。
- 意見7 中学までは地域とのつながりはあるが、高校生になると途切れてしまう感じがあった。今年度、吉城高校が古川祭の1日を休業日にしたことで、私自身、地域とのつながりが強くなったと感じているし、地域の方も感じている。また、YCKについても地域に根付きはじめ、地域住民が「YCK」といった言葉を使うようになってきている。5年前の参加と比べると、約10倍の生徒がYCKに携わるようになり、ますます地域の人々と繋がっていければよいと思っている。
- 意見8 メディアで吉城高校の活躍を見るたびに、誇らしく、身近に感じるようになった。自分自身、YCK活動の取材に携わることがあったが、生徒は活動を通じて地域を盛り上げるとともに、地域の良さを発見している。また、企業説明会や企業見学、職場体験を企画する

例として、子どもたちが職業観や将来像を構築できるような働きかけをしていきたい。

- 意見9 企業としては、地元で働いてほしいという思いは強いが、地域との関わり（消防団や祭り）を拒否する若者もあり、地域連携は難しい課題だと感じている。ただ、Uターンしたい若者に対して、企業の魅力を伝えると同時に地域のよさを伝えていくことは必要であり、YCKの活動は、地域の魅力を子どもたちに伝えるために役に立っている。
- 意見10 YCKの活動は社内でも話される。テーマを与えられ、企画・実行・振り返り、といった取り組みは働いてから重要であり、さらには、コミュニケーション能力の向上につながっている。中学生が職場体験を行っているが、吉城高校も積極的に行うとよいのではないかと感じている。
- 意見11 コミュニケーション能力が非常に高くなってきているのではないかと。吉城高校の生徒は、道端でも挨拶をしてくれる。YCKの活動が大きな影響を与えていると思う。手探り状態から始まったYCKの活動が充実し、他からも好評を得ており、先生方の取り組みが実を結んできている。ただ、YCK活動は課外活動が主になっている。学校は日常の授業がメインであるため、教科指導において、課題解決学習、主体的な深い学びを積み上げることによって、YCKプロジェクトが発展していくと思う。
- 意見12 昨年度の「三寺ミッション」のような課題解決型の活動が、全体の中でバランスよく強化されていくとよい。課題解決能力は4つに分解できる。①課題の発見能力、②解決案の企画能力、③解決案の実践能力、④実践後の改善能力である。YCKの中で同様のステップを踏む「三寺ミッション」には期待する面が大きい。
- 意見13 地域課題の発見という点では、様々な教科の授業を通じて、地域を題材にして課題を考え解決していくといった、「課題解決型の授業」を取り入れていかれることを、先生方には大いに期待している。
- 意見14 職場体験は、現場を見ることによって労働のイメージを持つことができるので、高校でも中学と同様に実施するとよいのではないかと。
- 意見15 生徒数の減少による部活動の存続、特にチームスポーツについては、合同チームや合同練習の検討も必要である。
- 意見16 入学生の確保については、魅力ある学校づくりとともに、募集の方法におけるテクニカルな面での工夫が必要である。他校のPR活動を知り、分析し、吉城高校に取り入れるとともに、吉城高校のコース制をPRすることはかなりの効果があると考えられる。ぜひ、間に迫る課題として取り組みをお願いしたい。
- 意見17 高い目標の解決を目指すのではなく、学校として一つの課題やできることへの解決を目指して、YCKや「フラッグシップハイスクール」といった土台を活用しながら、吉城高校の特色を出していくことが大切である。また、コミュニケーション能力を高めることは、生きる力を高めることにつながる。プロジェクトを通じて生徒一人一人のコミュニケーション能力が高まるように、学校とキャリア教育コーディネーターが協働し、現在の取り組みを進めていってほしい。
- 学 校 皆様方からのこれまでの様々なご指導やご支援に感謝している。ようやく体制が整いかけたところなので、今後もしっかりと取り組んでいきたい。課題解決能力を身に付けさせ、授業や他の場面においても活用できるように、これからは様々な機会を与えていきたい。また、事業を進めることで教員の多忙化が伴うが、皆様のご協力のもと、仕組み・体制づくりをきちんと行い、一部への負担とならないような取り組みにしていきたい。

6 会議のまとめ

本校のこれまでの取り組みに対する肯定的な意見を多くいただいた。特に、YCKプロジェクトについては、地域に浸透してきていることが分かり、地域とのつながりを強く感じる事ができた。

今後の吉城高校の在り方について、参考となる意見を多くいただくいなかで、学校生活の中心である授業（教科指導）に対する助言もいただいた。